



伝統を未来(To the Future)へ継承したい
私たちは地域に学び、地域と共に生きる

〔受賞理由〕

地域の伝統芸能継承活動として「球磨神楽」(くまぐら)「東方組太鼓踊り」(ひがしかたぐみたいこおどり)「浅鹿野棒踊り」(あざかのぼうおどり)を学習時間、夜間練習、夏休みを利用して各保存会から指導を受けて練習し、文化祭や地元の里宮神社の秋季大祭で披露している。中学生たちはこれらの活動を通じて学びを共有し、少子高齢化社会の中で、主体的に地域の伝統や文化を継承する大切さを学んでいる。

「ふるさと・湯前町への誇りと感謝 ～伝統芸能継承活動～」

執筆：湯前町立湯前中学校長 酒井 勇一



本校の伝統芸能継承活動は、平成16年から22年にわたり、国及び湯前町指定無形民俗文化財である3つの伝統芸能を、地域の中で学校が核となって継承している全国的にも希少な取組であり、第4回古典の日文化基金未来賞の表彰は、生徒の郷土愛や伝統を尊重する態度の育成に、重要な役割を果たしていることを高く評価いただいたことに大変誇りに感じます。

◆きっかけは野球部員から◆

湯前中学校の伝統芸能継承活動の産声が上がったのは平成15年。地元の里宮神社の「子どもたちに湯前町に残る神社や伝統文化について理解してもらいたい」との願いと、中学校の「子どもたちに将来、故郷・湯前町を誇りに思ってもらいたい」との願いが合致し、「伝統芸能の継承」という形で、当時の野球部員1年生の7名が「球磨神楽」をしたのがきっかけでした。そして、平成16年には「浅鹿野棒踊り」と「東方組太鼓踊り」が加わり、平成17年から湯前中生による伝統芸能継承活動が本格的に始まりました。

◆伝統芸能継承活動の紹介◆

平成16年に始まった湯前町立湯前中学校の伝承芸能継承活動は、令和8年度で22年目を迎えます。これらの活動は「ふるさとを愛する生徒の育成」を目標に、総合的な学習の時間や放課後のPTAによる運営等で、本校生徒が地域の指導者の皆さんから、地域に伝わる3つの伝統芸能(球磨神楽・浅鹿野棒踊り・東方組太鼓踊り)を学んでいます。

～ 球 磨 神 楽 ～

熊本県南部の球磨・人吉地域に伝承されている神楽で、古くは室町時代から始まり、江戸時代には領主相良藩の保護を受け、神社の祭礼の節や雨乞い、疫病退散など、領内の平和などを願い、郡内の各神社で行われていました。以前は、33番ありましたが、現在、伝承されているのは「三番神楽」、「田楽」など17番のみであり、昭和37年に保存会が結成され、神社単位で奉納から保存会による各神社での奉納に変化してきました。平成25年に国指定重要無形民俗文化財に指定されました。



～ 浅 鹿 野 棒 踊 り ～

棒を持って踊る風流系の民族芸能である「棒踊り」の一つです。明治38年ごろに久米思川（多良木町）より習い伝わったと言われ、湯前町の浅鹿野を中心に継承されています。踊り手は、棒4人、鎌2人が一組となり、「道踊り」、「鎌倉棒揃」等の演目を踊ります。他に唄い手や三味線、拍子木、太鼓、笛が加わり、口伝で伝承されてきました。踊り手は、浅鹿野の長男に限定し、浅鹿野の集落内で修練されてきました。昭和44年に湯前町無形民俗文化財に指定されました。



～ 東 方 組 太 鼓 踊 り ～

熊本県南部に分布する「臼太鼓踊り」の一つで、湯前町の馬場地区に伝承されています。明治3年に踊ったのが最古の記録とされており、踊り手は、源氏方と平家方に分かれ、総勢14人で源平合戦を表現し、「進軍」、「緒戦」、「頭の出打ち」等から構成されています。馬場地区の長男に継承されていたため「長男踊り」とも呼ばれていました。現在では、地区の人だけではなく、青年団や地区外の人、中学生も加わり、踊りが継承されています。昭和44年に湯前町無形民俗文化財に指定されました。



◆活動の成果として◆

令和8年度は、11月1日の本校文化祭と11月15日の市房山神宮里宮神社秋季例大祭で披露することになっており、保護者や地域の方々のみならず、小学校の児童や同窓生の方々に観覧いただきます。

また、本年度は11月16日に熊本県庁で開催される「令和8年度文化財保護大会」において、東方組太鼓踊りがオープニングを飾る予定でしたが、令和8年熊本地震のため、本大会が中止となりました。

◆1期生として◆

1期生として球磨神楽に参加した工藤晃介（36）さんは、「最初は野球部1年の時に球磨神楽を始めました。3年の時に取り組んだメンバーが1期生となります。当時は、3学年の生徒数が48人いましたが、生徒の大半は未経験だったので、覚えることに苦労していました。令和6年度の古典の日文化基金未来賞の表彰は、大変光栄なこと。学校の授業で続けてもらっていることや、先生や保護者の協力に感謝しています。現在は東方組太鼓を指導しているが、当時、習った生徒が指導者として続けられていることに、20年の重みを感じます。」と振り返っておられました。

◆伝統芸能継承活動を経験して◆（令和6年度生徒会長 吉田 楽々さん）

～最高の宝物～

20年の活動を振り返って、中学生は伝統芸能の技術だけではなく、思いや心構えを学び引き継いでいます。壁にぶつかる悔しさもありましたが、同じ志を持つ仲間と協力して納得できるものになるまで練習を続けてきました。文化祭や里宮神社秋季例大祭で堂々と披露できたことは、一生心に残る最高の宝物になりました。3年間伝統芸能を見てきて、同じ演目でも披露する人で表現の仕方で違う演目に見えるところが伝統芸能の魅力です。難しいけど、やりがいがありました。

～踊りを終えて～

もう終わりなのかという感じです。もっと踊りたい気持ちがあります。鈴をもって四方を向いて舞うので、立ち位置を意識して舞うことや独特の表現が難しかったです。

指導者の方には熱心に指導していただきました。後継者不足というところから、自分たちがしっかり受け継いでいくべきと感じました。

～3年生から引継ぎ～

1・2年生や小学生の皆さんには、伝統芸能を守り続けてきた人への感謝の気持ちを忘れず、活動が続けてほしいです。伝統を守り続けながら、自分たちの手で表現して、伝統芸能をよりよいものにしてほしいです。

◆伝統芸能継承活動を観賞した小学生の感想◆（令和7年文化祭）

わたしは、まず球磨神楽を見て、笛とたいこの音に合わせてゆっくりおどっていてとってもきれいだと思います。次に浅鹿野棒踊りを見て、争っているかんじに見えて、はく力がありました。最後に東方組太鼓踊りを見て、たいことかねの音がとってもひびき、カッコ良かったです。（5年女子）

今日は、文化祭を私たちにを見せてくれてありがとうございました。ぼくは、東方組太鼓踊りで、みなさんが大きく動いたりしているところに感動しました。これからは私たちが伝統を引き継いでいく番なので頑張ろうと思います。（6年男子）

ぼくは、伝統芸能を見て、こんな迫力あるものが、湯前中学校で21年間引き継がれているということが、とてもすごいと思いました。特に、東方組太鼓踊りが、迫力があってすごかったです。（5年男子）

中学生の伝統芸能を見て、特に東方太鼓踊りが心に残りました。がんばって練習したのがすごく伝わる伝統芸能でした。これから私たちが伝統を引き継いでいき、多くの人を感動させていこうと思いました。（6年女子）

◆伝統芸能継承活動に込めた思い◆

湯前町に残る国及び町指定無形民俗文化財（伝統芸能）を20年間、継承し続けてきた本校の取組を高く評価いただき、令和6年には古典の日文化基金未来賞という名誉ある賞をいただきまして、あらためまして心より御礼申し上げます。

湯前町は、人口3,325人（令和8年7月）の小さな町であり、本校も生徒数95人の小規模の中学校です。少子化や過疎化に伴い、町人口、生徒数ともに減少の一途をたどっています。さらに、現在在籍している生徒たちの多くが、将来、故郷を離れていくことにもなっていくと思います。

このような小さな町において、古い時代から受け継がれてきた伝統芸能を本校生徒により継承させていただいているこの活動は、ふるさとに残る伝統芸能を何とか未来に残していきたいという思いとともに、この経験を通して、故郷に思いを馳せ、故郷を忘れず、愛し続けられる、そんな大人に育ててほしいという思いで取り組んでいます。

今後も、子どもたちの「郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度」の育成を目指し、本校教育活動の柱に据え、保護者、地域の方々のご理解とご協力のもと、学校挙げて伝統芸能を守り、継承していきたいと思えます。

